

8/17  
手渡

# 白書を読む

Hakusyo.  
YOMU

「高齢社会白書」によれば、2016年の高齢者世帯（65歳以上の者のみ、または18歳未満の未婚者が加わった世帯）の平均所得は318・6万円、全世帯から高齢者世帯と母子世帯を除いたその他世帯の5割弱となつています。所得階層別分布では200万～250万円未満が最多です。生活保護受給者が16年

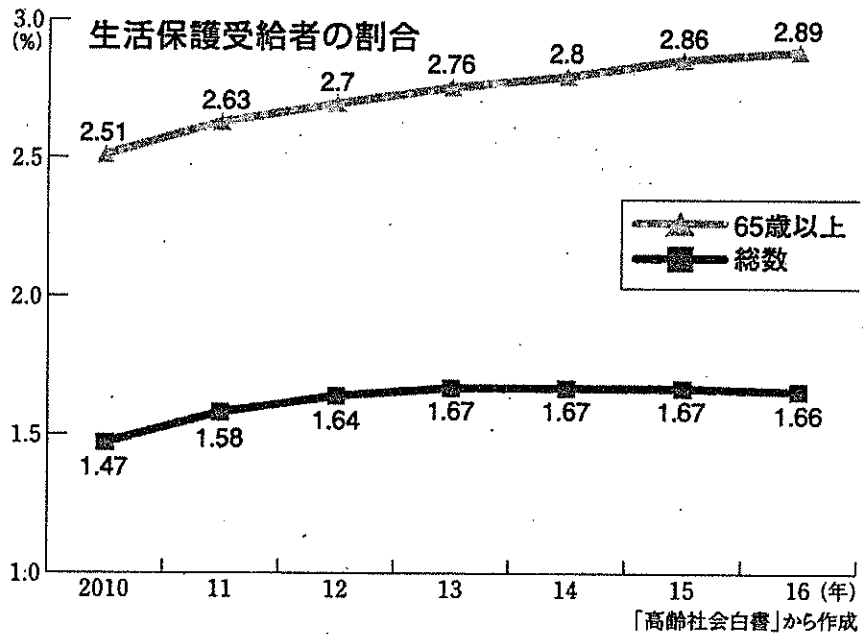
「白書」は内閣府の調査を引いて「経済的な暮らし向きに心配ないと感じる60歳以上の者は64・6%」と、さも高齢者のくらしに余裕があるかのよう描きます。一方、厚生労働省の「国民生活基礎調査」では、高齢者世帯の55・1%が生活について「苦しい」と回答。全く異なる結果が出

## 「高齢社会白書」

は減少に転じるなか、65歳以上の受給者は100万人を突破。人口に占める受給者の割合も全体の1・66%に対し、65歳以上は2・89%です。

安倍・自公政権による年金の連続改悪、医療・介護の保険料、利用料の連続値上げなどによって、高齢者の貧困が深刻さを増しています。

## 増える65歳以上の生活保護



ています。

安倍政権は、高齢者のうち「現役並み所得者」を標的に、さらなる医療・介護の負担増を狙うとともに、年金を自動削減するマクロ経済スライド

によって、40年代には現在6万5千円の基礎年金（国民年金）の満額を実質4万5千円に引き下げようとしています。これでは、高齢者のくらしは苦しくなる一方です。